

福祉サービス第三者評価結果（総括表）

①第三者評価機関名

株式会社評価基準研究所

②施設・事業所情報

名称：心羽ルネサンスキッズ	種別：企業主導型保育施設
代表者氏名：安 美穂	定員（利用人数）： 19 名
所在地：茨城県ひたちなか市高場1595-26	
TEL：029-219-9181	ホームページ：http://seishin.biz/
【施設・事業所の概要】	
開設年月日：平成31年4月	
経営法人・設置法人（法人名等）：社会福祉法人 清心福祉会	
職員数	常勤職員：3名 非常勤職員：4名
専門職員	保育士：5名 看護師：1名 子育て支援員：1名
施設・設備の概要	居室 保育室：1（フェンス利用で3）、事務室：1 設備 厨房：1、沐浴室：1、トイレ：2、足洗場：1 建物面積：164.73㎡

③理念・基本方針

- | |
|---|
| <p>1) 経営理念：法人としての基本的な方向性・価値観を明確化し、日々の保育・運営の判断基準として活用。</p> <p>2) VISION・MISSION・PASSION・ACTION ステートメント：経営理念の実現に向けた具体的な指針、職員の行動や保育方針に反映。</p> <p>3) スローガン：「子どもの成長の機会」を大切にし、職員や保護者に分かりやすく親しみやすい形で理念を共有。</p> <p>4) 中長期保育テーマ・中長期職員テーマ：5年ごとの見直しを通じ、子どもの成長を育む保育方針や職員育成方針を定め、理念と現場を連動。</p> <p>5) 年度ごとの保育テーマ・職員テーマ・三大重点項目：中長期テーマを達成するために単年度でテーマを設定。</p> |
|---|

④施設・事業所の特徴的な取組

<p>小規模な企業主導型保育園であるが、法人本部や法人の旗艦である保育園と道路を挟んだ場所に立地しており、法人全体が必要でもある「児童発達支援施設」を本園の2階部分に設置して、法人内の他の3保育園から、歳児別にふさわしい発達支援のカリキュラムを実施するために、該当する園児をピックアップして、個別の手厚い発達援助を行っている。この施設とも連携して、少人数ならではのきめ細かな保育を園として目指しており、今回の第三者評価受審を契機として、施設長の高い改善意欲も感じ取れた保育園である。</p>

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	令和7年9月1日（契約日）～ 令和8年3月26日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	1回（令和元年度）

⑥総評

◇特に評価の高い点

【園全体が明るさと前向きさがあり、子ども達が伸び伸びと活動できる雰囲気 naturali醸しだされている】

保育室に入るとすぐに季節の装飾があり、どの作品も個性が光っていた。子どもの考えや表現を尊重し、一人ひとりに丁寧に向き合っていることがうかがえる。ワンフロアで声を掛け合いながら保育をつくる職員の協働性が高く、互いに相談しながら保育を組み立ててきた経験がチームとしての結束を高めている。安全管理面では危険情報を保護者と共有し、家庭と園が協力し合う体制が整っている。保護者同士が自然に助け合う文化があることも園の信頼性を高めている。

【法人本部との連携により、同建物内の「児童発達支援施設」を活用しつつも、保育環境の改善により、園児が心から楽しめる環境づくりに励んでいる】

本園は、法人本部がある保育園の向かいに立地しており、法人本部との密な連携により法人として唯一設置している「児童発達支援施設」を本園の2階部分に設置して、法人内の他の3保育園から、歳児別にふさわしい発達支援のカリキュラムを実施するために、該当する園児をピックアップして、個別の手厚い発達援助を行っている。また、このためにベテランの**管理者**を法人内から選び、専門的な支援をできる職員も配置するなどしている。上階とは、直接の階段も設けており、行き来ができるようになっているが、企業主導型保育園としての園児に関する保育についても、少人数ならではの個別最適な保育を手厚くできるように、管理者が中心となって職員間のコミュニケーション充実から新たな模索を始めつつある。

【子どもの心身の成長を育むために子どもの姿から環境を考え工夫している】

子どもの姿を捉え、環境の工夫を行い子どもの遊びが豊かになっている

一人ひとりの子どもの発達段階に応じた、その子どもに応じた個別的な関わりを大切にしている。園は自然環境に恵まれ、戸外活動や音楽、文化体験を通して五感の発達やさらに、健康や、感性を育む保育活動を行っている。さらに、健康的な体づくりや心の成長、探究心、協調性の保育方針に重きを置き、クラスごとに活動空間や環境を柔軟に調整している。

例えば、2歳児クラスでは、運動スペースを拡張し身体的活動が充実して行われるよう空間を上手く活用できるようにしたことで、子どもたちの主体性や、子ども同士の関りが豊かになり、遊びも広がっている。このように同園は、「自然・学び・生活」の要素を統合し、子どもの心身の総合的な成長を育む保育を実践している。

◇改善を求められる点

【子どもが自ら気づき、感じ、手に取り試すことができる環境づくりをさらに深めよう】

職員によって次々と展開される活動や言葉は施設全体で確立され、人的環境の豊かさを感じた。子ども一人ひとりの違いを認め受けとめ、それぞれの個性を伸ばすことを意識し保育にあたっている。一方で子どもが自由に玩具を選び、興味のあるものに触れ遊ぶ機会は少ない。乳児期は環境から主体的に学ぶ力が最も伸びる時期であり、園ではこの時期の環境構成が極めて重要であると考えられることから、さらにこどもの動線や興味の広がり、自発的な遊び

が展開され子ども同士のやりとりが自然に生まれる環境づくりに期待する。】

【子どもたちの「自主性の意味」を本質から問い直し、自園での保育を根柢から説明できるように職員間での議論を進めることに期待したい】

本園での保育については、生活面と遊びの面の双方で、園として謳っている「自主性」が実現に向けて検討されているのかに疑問を感じる場面が幾つか見られた。生活面では、子ども達にトイレの利用を一斉に促したり、保育者の声やトーンが大きく、子ども達に言うことを聞かせようとする場面など、職員の態度には子どもたちの「自立」とは何かほとんど意識されていないようにも受け取られる場面もあった。「自立」は、何でも自分でできれば良い子を目指すのではなく、できないことは人に頼れる子、であるという現代の保育の常識、から出発し、保育士は「子どもの発達を阻害する存在」には絶対にならないという強い意志が各職員には必要であろう。そのためには、今まで疑ってこなかった保育の常識は、すべて疑ってかかることも必要かもしれない。法人として、これからのあり方はここに立ち返って一から、一人ひとりの職員の意識変革から着手することも必要かもしれない。

【職員同士で、乳児保育における音環境の学びを深めていき、本園の目指す保育の実現に期待される】

乳児期は、聴覚を通して多くの刺激を受ける時期であり、周囲の音環境は言語の習得や脳の発達、情緒の安定に影響を与える。特に、養育者や保育者の声や会話、読み聞かせは安心感を与えながら言葉の理解を育てる。今回の訪問調査で子どもと近い距離で話す際の声の大きさが気になり、子どもにとっては、その音が負担となり、活動しにくくなる可能性もあると感じた。子ども一人ひとりの感じ方を考え、落ち着いた声の大きさに関わることを望まれる。子どもの姿から保育者の関りを学ぶ機会をつくり、乳児保育における音環境への理解を深めることで、より質の高い乳児保育の向上に繋がることを期待される。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

このたびは、当園の保育及び運営全般にわたり、丁寧かつ多角的なご評価並びに貴重なご助言を賜り、心より御礼申し上げます。今回の第三者評価は、本園のこれまでの取組を改めて振り返るとともに、その強みや課題を再認識する大変有意義な機会となりました。

理念に基づいた組織運営のもと、中長期的な視点に立った計画の策定や課題に応じた改善の取組、職員間の協働及び法人内連携を活かした保育の質向上への取組など、これまで継続的に進めてきた実践について評価をいただき、大変ありがたく受け止めております。加えて、人材育成や働きやすい職場環境づくり、地域との関わりや情報発信、安全管理体制の整備など、運営全体にわたる幅広い取組についてご評価いただいたことは、組織としての方向性を再確認する機会となりました。

一方で、理念や方針に対する職員一人ひとりの理解と共感をさらに深めていくこと、子どもの主体的な活動を支える環境構成の工夫、保育の意図や実践内容の言語化・共有の充実など

についてご助言をいただきました。また、子どもたちへの声掛けや関わり方、「自立」の捉え方についても改めて見直す契機となり、現在は職員間で協議を重ねながら、日々の保育の中で意識的に実践しております。

なお、面談の場においては、これまでの取組や職員への思い、そして子どもたちの育ちに対する責任の重さを改めて実感する中で、言葉にしきれない思いが込み上げ、十分にお伝えすることができない場面がございました。管理者として未熟さを感じると同時に、それだけ本園の保育及び職員一人ひとりの実践に真摯に向き合ってきた証でもあると受け止めております。今後は、その思いを丁寧に言語化し、職員と共有しながら、組織としての力に変えていけるよう努めてまいります。

今後は、日々の保育の振り返りや職員間の対話を通じて学びを蓄積し、これらのご意見を継続的に共有するとともに、組織としての共通認識をより一層高めてまいります。また、組織的な学びを循環させる仕組みを意識し、個々の実践を園全体の財産として活かしていくことで、より安定した保育の提供と持続的な成長を目指してまいります。

引き続き、本園の強みである職員同士のチームワークを大切にしながら、子ども一人ひとりの「ときめきの種」を丁寧に育む保育環境の実現及び保育の質のさらなる向上に取り組んでまいります。

このような貴重な機会を賜りましたことに、改めて心より感謝申し上げます。

⑧評価細目の第三者評価結果（別紙）

評価細目の第三者評価結果（個票）

※評価細目について、判断基準に基づいた評価結果を表示する。

※評価細目毎に第三者評価機関の判定理由等のコメントを記述する。

評価対象Ⅰ 福祉サービスの基本方針と組織

I-1 理念・基本方針

I-1-(1) 理念，基本方針が確立・周知されている。		
評価細目	評価結果	コメント
I-1-(1) ① 法人や施設（事業所）の理念が明文化されている。	a b c	

I-2 経営状況の把握

I-2-(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。		
評価細目	評価結果	コメント
I-2-(1) ① 事業経営を取り巻く環境と経営状況が的確に把握・分析されている。	a b c	
I-2-(1) ② 経営課題を明確にし，具体的な取り組みを進めている。	a b c	

～以下，評価基準に沿って評価細目毎に公表